

令和6年度

櫛淵小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的に学習する力を伸ばし、共に学び高め合う児童を育てるための実践研究
- 家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員(校長) 山口裕司(教頭) 建島真紀
(教務・研修主任) 山本あゆみ③④
野上綾音⑥ 今井美玖②・岸本利喜⑤
○内は担当学年

校長

山口 裕司

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な計算や漢字の読み書きなどに根気強く取り組み、一定の成果が見られる。 ●基本的な計算では、やや正確さに欠け、時間がかかる児童や、学年が上がると漢字習得の達成度が難しくなる児童も見られる。語彙数が少なく、問題を読み取る力や学習したことを言葉や文章で表現したり生活に生かしたりできる力の育成が課題である。	・複式学級の中で、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・語彙数を増やし、正しく文章を読んだり、適切な言葉を使って自分の考えを文章で表現したりできる。	・朝の活動で、一人一人が自分の課題を明確にして、取り組めるようにする。タブレットを効果的に活用し、基礎・基本の定着や語彙数の増加を図るようにする。 ・話す・書く活動を増やし、説明力を伸ばす指導をする。 ・教科学習指導だけでなく、日記指導も大切に、適切な言葉や既習の漢字を使えるようにする。 ・授業にユニバーサルデザインを取り入れ、学力向上の掲示の工夫をしていく。 ・高学年では、理科・社会科・音楽科・体育科・家庭科において教科担任制を取り入れることで、基礎・基本のさらなる定着を図る。	・それぞれの教科等における基礎的・基本的な知識等の習得をより徹底させる。 ・身に付けた知識を生かす場面を増やす。	・日記や日常生活の中での指導を通して、適切に漢字を使おうとする意欲を高めることができた。 ・漢字・計算テスト等を継続的に行うことで、基本的な漢字・計算力は定着しつつある。 ・単元によっては、学習後、時間が経つと正答率が下がってしまう児童もあり、まだ定着が十分とはいえない。	・基礎・基本の定着を図るために、各学年・学級の実態に応じて、くり返し漢字・計算ドリルや応用問題などに取り組み、一人一人の達成状況等を明確にする。 ・自分の思いや考えを文章に表す力がまだ十分ではないので、話す・書くことで説明力を伸ばす指導をしていく。 ・問題を読み取る力に課題があるので、読書活動の推進にさらに努めると同時に、読み聞かせ活動を取り入れ、文を読み取る力を向上させたい。新聞のスクラップや要約する活動も取り入れる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題や活動に落ち着いた態度で取り組み、自分なりの考えをもち、自信をもって自分の意見や感想を伝えることができる児童が増えてきている。 ●自分の思いや考えを筋道を立てて話したり、文章で表現したりすることに課題がある。	・目的に応じて、自分の考えを理由や根拠を明確にしてまとめ、表現することができる。 ・タブレットを効果的に使い、自分の思いや考えを文章に書いて表現することができる。	・やまも班の異年齢集団活動や集会活動を工夫することで、一層話し合いが充実するようにする。 ・算数科においては、引き続き、教科書ノートやホワイトボードを活用することで、自分の考えなどを説明する力をさらに伸ばす。 ・自分の考えを伝える場面では、一人一人が考える時間を十分に取、分かりやすく、説得力のある話し方ができるように意識させる。聞き手としての態度も育成する。 ・タブレットを活用し、児童同士で互いの意見などの情報交換ができるようにする。	・班で話し合いを行う前に個人で考える時間をしっかりと確保する。 ・「なぜ」「どうして」などのさらなる発問を行い、児童の考えを深めさせる学習場面を増やす。	・集会活動にたて割り班活動を取り入れたことで、班の中で自分の意見を言える児童が増えてきた。 ・自分の考えをまとめる際に大切な言葉や接続詞の使い方などを指導したことで、自信をもって発言できる児童が増えてきた。図や言葉で表現できるようになってきた。 ・ICTを効果的に用いての意見交換の場の設定が十分でなかった。	・タブレットを活用し、児童同士で互いの意見などの情報交換ができるようにする。 ・意図的に児童同士が話し合いができる場を設けることで、一層話し合いが充実するようにする。 ・タブレット・ホワイトボードを活用したより効果的な実践を行う。 ・図形学習などでは、実際に操作できるようにメタモジも効果的に活用していく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○意欲的に学習し、与えられた課題に真面目に一生懸命に取り組める児童が多い。 ●進んで課題を見つけ解決しようとする力や、疑問に思ったことについて自分の力で調べようとする力をつける必要がある。	・課題や自主学習に積極的に取り組み、初めて出合った課題に対しても自分なりに解決していくことができる。 ・各教科の学習に関する本を読み、学習を深めることができる。	・教科や単元によって、タブレット(Aidドリル)と自主勉強ノートを使い分けられるようにする。 ・学年を超えて自主学習の様子を紹介、掲示するなど、家庭学習への意欲を高める。 ・朝の活動だけでなく、早く登校した時や授業中、休み時間等で余った時間を活用したすきま読書を進め、読書の習慣化を図る。 ・市立図書館の団体貸し出しを活用し、図書の実充を図ったり、図書委員会が主体となり、読書推進活動をするなどして、読書に対する意欲が持続するようにする。	・読書が習慣化するよう声かけを行う。 ・自主学習への意欲が高まる取り組みを増やす。	・児童の興味、学習に合った本を市立図書館で借りたことで、よく読んでいる様子が見られ、読書意欲を継続することができるようになってきた。隙間時間に読書をする児童も増えてきた。 ・自主学習に意欲的に取り組める児童が増えてきたが、まだまだ十分ではない。自主学習ノートを定期的に掲示したが、学習意欲を高めさせるところまで到達できなかった。	・家庭学習の習慣化は、今後も地道に児童や家庭への働きかけが必要である。タブレット等を用いて、分からないことなどを自分で調べることを習慣化する。 ・単元の終末時に復習として、タブレットを活用することはできたが、より効果的な活用方法を考えていく必要がある。 ・読書については、引き続き、市立図書館の団体貸し出しの活用やすきま読書を推進し、読書の習慣化を図る。

令和6年度 学力向上ロードマップ

